

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>



読書普及講演会の報告



■ ご参加ありがとうございました！ 山田太一氏をお迎えし、講演会を開催しました ■ ■

去る12月4日(水)川崎ゆかりの脚本家・山田太一氏をお迎えして“読書のまち・かわさき”読書普及講演会を開催いたしました。大変多くの方にお申込みをいただき、当日は400名近くの方が来場され、熱心に耳を傾けていました。講演は「今ここで生きているということ」と題して、数人の詩人の詩などを紹介いただきながら、松竹時代の失敗談や本との関わり、「言葉」に対する想いなどを語っていただきました。穏やかな口調でありながら、とても強い意志が伝わってくるお話に、会場の方々も引き込まれていました。山田氏の言葉をほんの一部ご紹介します。



「私たちは本当のことから逃げて、それに近い言葉を使って生きているところがあるのじゃないかと感じているんですね。でも、それで生きやすくなっているのかもしれない。私たちは現実だけでは怖くて生きていけないんですね。」
「生の言葉を使うことを怖がっているのだなあ、と。現実に近いそれを言葉として必要としている。生の言葉、本当の言葉は何なのだろう。」

「順調だけの人生はない。マイナスだと言われているものが、実はものすごく豊かなものを持っているのではないかという風に思うことはできないか、って思うのですね。一略— マイナスと思っていたものを改良していくうちに、そのマイナスの良さみたいなものがつぶれていってしまう、無くなってしまう、ってということもあるということ、もっといろんなかたちで語ってもいいじゃないかなと思うのですね。」

「決まり文句でかたづけしないで、少し立ち入って考えなきゃいけないと思います。一略— なるべく安っぽい言葉、僕も言っちゃいそうだけど、そういう言葉じゃないもっと踏み込んだ世界は、ただ周辺を見ていても、自分の考えだけでは無理なのではないかと思う。」

「本は本当に肝心なときは役に立たないけれど、現実だけでは嫌だという思いも皆あるところではあると思いますね。僕は本を悪徳だと思っていながらやめられなくてね。」

…などなど、いかがでしたでしょうか。参加された方からは「はっとさせられた」「日ごろ考えていたことのヒントに出会えた」などの感想が寄せられました。

■ 今年も「シネマ＆ドラマな図書館」やってます ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

毎日映画コンクールが今年も川崎にやってきました。今年で68回目を迎え、1月には各受賞者・作品も発表されました。

川崎市立図書館では、授賞式が行われる2月13日を中心に、市内各図書館(分館・閲覧所を除く)にて、これまでのコンクールで大賞を取った作品の原作やシナリオを集めた特集コーナーを設置いたします。(開催期間は館によって異なりますので、各図書館へ直接お問い合わせください。)



自動車文庫「たちばな号」有馬9丁目ポイントを新設しました

平成26年1月から「有馬さくら公園」への自動車文庫の巡回が始まりました。

ポイント名 有馬9丁目
巡回日時 第1・3金曜日 15時10分～15時50分
場所 宮前区有馬9-6-1 有馬さくら公園内

※『鷺沼』ポイント及び『有馬4丁目』ポイントは、平成25年12月をもって運行を終了しました。新ポイント「有馬9丁目」をはじめ、たちばな号は市内19箇所を巡回しています。皆様のご利用をお待ちしています。

※各ポイントの場所や利用方法については、図書館ホームページをご確認ください。

川崎市立図書館ホームページ

<http://www.library.city.kawasaki.jp/riyouhs.html#kuruma>



第22回



(このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。)
今回は、ものづくりのまち川崎を支える
地域に根付いた企業を集めた本をご紹介します。

A:『かわさき百年企業 創業者の思い、今へ、未来へ』

川崎商工会議所／編集 神奈川新聞社 2013. 3

見慣れた看板のあの店には、こんな歴史があった！川崎に根付いた企業10社が語る、経営秘話と苦境を乗り越えるノウハウ。明治、大正から今へと続く営みの中には、郷土川崎の姿が見えてきます。ご近所の老舗を見つけてみませんか？



A

B:『新・川崎元気企業 国際イノベーション都市・川崎への道』

川崎市産業振興財団／編 川崎元気企業研究会／著 神奈川新聞社 2013. 8

時代の潮流の変化（グローバル経済、環境問題、少子高齢化など）に適応してきた川崎の元気企業群を、「ものづくり」「環境エネルギー」「健康福祉」「医療バイオナノ」「生活文化」「情報・エレクトロニクス」「海外発展」の7つのタイプに分けて、60社を紹介しています。そのほか、川崎市経済・産業の強みや国際イノベーション都市・川崎の新展開について紹介されています。「川崎元気企業本」第3弾です。



B

C:『京浜工業史』

藤田晃天／著 京浜工業史刊行事務所 1931

昭和6年に刊行されたもので、この中の「会社工場篇」「官公衛学校篇」では当時すでに市内に存在していた会社や公立学校の所在地や従業員数・生徒数、設備などが紹介されています。今でも同じ住所にある会社、学校も見られます。巻頭には「鶴見臨港協会会長」の肩書で浅野総一郎が序文を寄せており、「特集収録篇」の市会議員一覧には後に川崎市初の公選市長となる金刺不二太郎氏の名前が見られるなど、昭和初期の川崎のリアルな姿を伝えておりタイムカプセルを開けるような面白さがあります。



図書館に寄せられたお問い合わせから

- Q: ・図書館から来たメールの貸出カード番号のところに、他人のカード番号が記載されているのですが？
・ホームページから図書の予約をしていたら、2冊目を予約するときに、他人のカード番号が勝手に表示されてしまう

A: お手持ちの貸出カードの番号が「19」「99」以外で始まる10桁の数字の方の場合に発生するもので、表示されている番号が「『18』+お手持ちのカード番号」となっていれば問題ありません。



過去に図書館システムを入れ替えた際、貸出カード番号を10桁から12桁に変更したため、変更前からの貸出カードをお持ちの方については、機械的に『18』をつけて12桁の数字として管理させていただいています。

「カード番号の欄に見慣れない番号が表示されている」と思われたら

- ① 「18」で始まっている番号かどうか
 - ② 「18」で始まっている場合、「18」より後の数字が手持ちのカード番号と同じかどうか
- の2点を確認してみてください。

上記にあてはまっている場合は、ご自身の貸出カード番号が表示されている状態ですのでご安心ください。なお、市民カードでご登録の方は、頭に「25」が付いた番号を図書館の貸出カード番号として管理させていただいているため、市民カードの番号とは異なる番号が表示されます。

平成
25
年度

神奈川県図書館協会功労者表彰団体を紹介します

神奈川県図書館協会から川崎市内の2団体が功労者として表彰されました。多年にわたり図書館活動を地域から支えてくださり感謝申し上げます。今後のさらなるご活躍を期待しています。

おはなしの小箱



中原図書館や市内の小・中学校で「語り」を主に、絵本の読み聞かせや手遊びなども取り入れたお話をしています。本と子どもを結びつけていくことを大切に活動しています。学習会等に参加し、「語り」や選書等について学ぶとともに、人材育成のための講師も務めています。

読書ボランティアすみれ



昭和53年に多摩市民館のボランティア講座の受講生によって結成されたグループで、多摩図書館、保育園、小学校、老人福祉施設等で絵本の読み聞かせなどを行なっています。また、多摩図書館で活動している他のボランティアグループとともにボランティア連絡会を立ち上げ、地域の読書推進に貢献しています。

川崎フロンターレと本を読もう！

フロンターレ帯コメント大賞の受賞作品が決まりました！！



昨年9月に募集した帯コメント大賞ですが、たくさんのご応募をいただきありがとうございました。



11月10日清水エスパルス戦で受賞作10作品の発表と表彰式を行いました。中村憲剛選手をはじめ、10名の選手がおすすめる本に素敵なコメントを付けていただきました。



受賞作品について、川崎市立図書館または川崎フロンターレのホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。



フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

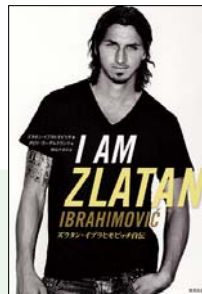
わが街・川崎のJ1サッカークラブ「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第14回は、安柄俊選手が選ぶ1冊を紹介します。



『I AM ZLATAN ズラタン・イブラヒモビッチ自伝』

ズラタン・イブラヒモビッチ、ダビド・ラーゲル克蘭ツ／著 沖山ナオミ／訳【東邦出版】2012年刊
《内容紹介》

スウェーデンのサッカークラブ「マルメFF」でプロデビューし、アヤックス、ユベントス、インテル、バルセロナ、ミラン等でプレー。全クラブでリーグ優勝、数々のタイトルを勝ち取ってきたズラタン・イブラヒモビッチ選手の自伝です。少し過激な内容ですが、「すべての子どもたちに、この俺の想いを伝えたい。」との選手の想いが詰まった一冊です。



KAWASAKI
Frontale



*** 安 柄俊選手より ***

スウェーデンの貧困地帯で生まれながらも、常に自分を信じプレーし、現在では世界有数のスタープレーヤーになったイブラヒモビッチが好きです。

バルセロナ時代の監督との確執など、けっこう赤裸々に書かれていて全体的におもしろかったし、プレーで多くの人を魅了していて、豪快な人だと思いました。一人の人間でここまで豪快になれるのか、勉強になります。こういうプレーヤーになるために、僕も自分を信じていきたいと思いました。

【FW27 安 柄俊選手】

中央大学から加入した大型FW。恵まれた体とスピード、そしてシュート力にすぐれており、レギュラー争いに加われるだけのポテンシャルを秘めている。

村上直